

歴史的建造物コラム

Vol.2 ～「名古屋三塔」の眺望点～

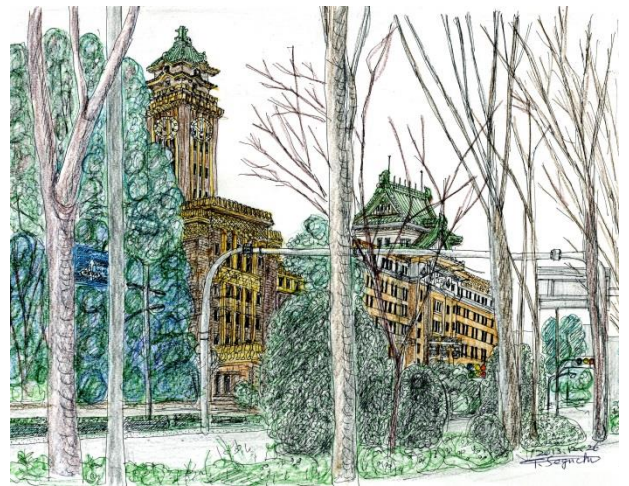
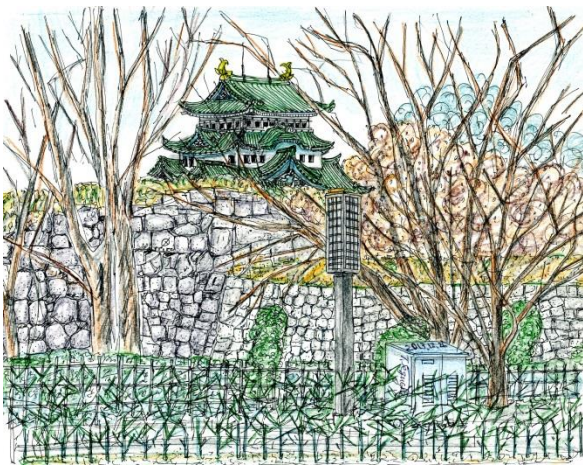
名古屋市立大学名誉教授 瀬口 哲夫

名古屋市が誇る本丸天主、名古屋市庁舎、愛知県庁の3つの塔屋、「名古屋三塔」が見える場所があるのをご存じだろうか。

本丸の天守は、慶長17年頃（1612年頃）の建造とされるが、戦災で焼失したため、昭和34（1959）年に再建されものであるが、天主大棟両端に雌雄の金鯨が輝く。

昭和8年竣工の名古屋市庁舎は、細長い塔屋を持ち、屋根の上で四方睨みの鯨がにらみをきかせる。

昭和13年竣工の愛知県庁舎の塔屋は、抽象化されたモダンな鯨を載せ、どっしりしている。



このように個性ある「名古屋三塔」が眺望できる場所が、三の丸東大手御門の柵形南側の歩道上にある。探し方は、まず、天主の見える場所まで行き、そこから、両庁舎が良く見える場所を定めればよい。便宜のため、路上に眺望点を示す目印が欲しいものだ。

この眺望点からの「名古屋三塔」の見え方は、朝方と夕方で異なる。金鯨の載る天守は、朝日で光り輝く朝方が良い。これに対して、名古屋市庁舎と愛知県庁舎は、西日の当たる姿が凛々しい。名古屋城見学の際、「名古屋三塔」の眺望を楽しんではどうだろうか。